

研究主題

若手教員の授業力向上による学力向上をめざして ～ I C T機器を活用した授業の構築～

大阪市立淡路中学校

1. 取組内容

今年度の取組は I C T機器を活用することを研究の題材として、メンターがメンティに関わり研修を進めた。これまでのメンターの関わりと大きく変化した点は、I C T機器を活用することで、研修グループや、校務部、各行事で作る委員会などの小集団の枠組みに捉われる事なく関係を構築できたところにあると考える。

また、I C Tを活用した授業を構築する際に、視覚的理解を進めさせる授業デザインをめざした結果、各教科における授業でのユニバーサルデザイン化を進めることになり、結果として教科間における垣根を低くすることができた。

さらには、メンターによるメンティへの働きかけはもちろんのこと、メンターよりも経験年数を重ねたグランドメンティによる関わりも活発になり、若手教員の授業力向上の大きな原動力となった。総じて授業力向上が教師力向上に、そして、学力向上につながった。



2. メンターの感想

- ・ I C T機器という道具を通して、メンティに対して様々な関わりを持てたことは大きかった。
- ・ じっくりと話を聞くことで、メンティの不安を取り除いたり、力を引き出せるように働きかけた。



3. メンティの感想

- ・ I C T機器を活用した授業を作る際に、教科を越えてメンターの先生方から、多くのことを学ばせていただきました。
- ・ I C T機器を効果的に活用した授業づくりは難しいところがありますが、今後もメンターの先生方とともに研究していきたいです。



4. 成果と課題

I C T機器の活用に重点を置いた成果として、教科指導や総合的な学習の取組等で、視覚的アプローチの場面が増えたことがあげられる。これまでは、ことばで意思疎通をし、教師と生徒が同じイメージに向かい進んできたが、様々な場面で視覚的なアプローチができ、そのことが教育的に良い効果につながった。

一方で、設備設置や授業内での機器活用方法での課題は残った。今後は、授業で使う I C T機器の設置に要する時間を可能な限り少なくすることで、多くの場面で I C T機器を活用する機会を増やし、活用方法を充実させるようにしていきたい。

